

東日本大震災 5,110日・14年の軌跡(上)

後 — 世 — へ

災害時の食事づくりを学ぶ綴小の児童たち。取り組
みは学校、家庭、地域の三者が連携



大地震、大津波、そして東電の原発事故。これら複合災
害で未曾有の被害をもたらした東日本大震災の発生から、
三月十一日で九十四年が経過した。だが、この数字は、記
号。被災地いわきでも風化が語られる一方、甚大な被害を
受けた市民は「昨日起きたことのように」と話す。隔たりを
生むのは、体験の差異。未経験の世代も増えている中、後
世への伝承はどうあるべきか。取り組みを追った。



中央台南中の生徒たちが、地元の小学校で「語り部
活動」を実施。伝承の輪が広がる